


伊万里有田共立病院
公的医療機関等 2025 プラン

平成30年8月

伊万里有田地区医療福祉組合

【基本情報】

医療機関名	:	伊万里有田地区医療福祉組合 伊万里有田共立病院
開設主体	:	伊万里市・有田町 一部事務組合
所在地	:	佐賀県西松浦運有田町二ノ瀬甲 860 番地
許可病床数	:	206 床
（病床の種別）	:	一般病床 202 床 感染病床 4 床
（病床の機能別）	:	急性期病床 206 床
稼働病床数	:	206 床
（病床の種別）	:	一般病床 202 床 感染病床 4 床
（病床の機能別）	:	急性期病床 206 床
診療科目	:	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、 糖尿病・代謝内科、神経内科、外科、心臓血管外科、 消化器外科、整形外科、脳神経外科、胸部外科、 小児科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、 リウマチ科
職員数	:	281 人
医師（常勤）	:	18 人
薬剤師	:	4 人
看護職員	:	198 人
看護補助者	:	21 人
管理栄養士	:	3 人
診療放射線技師	:	9 人
理学療法士	:	7 人
作業療法士	:	4 人
臨床検査技師	:	8 人
臨床工学士	:	1 人
言語聴覚士	:	2 人
社会福祉士	:	4 人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○患者の受療動向

西部医療圏では、南部への一定の流出、長崎県からの一定の流入が見られます。南部への流出は、高度急性期・急性期の割合が高くなっています。

医療機関数・病床数は、確保されていますが、診察できる診療科が限られており、区域外の医療機関への患者の流出がみられます。

また病床数は、ここ数年概ね横ばいですが、診療所においては、有床診療所の廃止や、無床診療所への転換などにより、近年、減少が続いています。

○人口の予測

西部医療圏では、65歳以上人口が2025年をピークに減少します。

また、75歳以上人口については、2035年がピークとなりますが、その後減少局面に入ります。
(国立社会保障・人口問題研究所)

○傷病別分類別死亡

西部医療圏の死亡数は、「循環器系の疾患」「新生物」「呼吸器系の疾患」の順位になっています。

② 構想区域の課題

医療資源は豊富にありますが、一般病床及び療養病床の割合が高く、一般病床及び療養病床の在り方の見直しを踏まえ、医療、介護、住まいの確保の適切な役割分担が必要です。
(表1-1参照)

当区域には現在、高度急性期病床がなく、専門医の不足により診察できる診療科も限られており、区域外の医療機関への患者の流出がみられます。

主要疾患の患者流出入の状況では、一定数が南部区域へ流出しています。

このような状況の為、「佐賀県地域医療構想(既存病床と必要病床のイメージ)」による

- (1) 人口構造の変化から将来の医療需要に対応した病床機能の確保、転換
- (2) 「病院完結型」から「地域完結型」に向けた医療と介護の連携及び必要な人材確保

という点につき課題を持つ区域だと考えられます。

表1-1 必要病床数と病床機能報告の比較

	医療機能	病床機能報告			必要病床数	H37必要病床数と 機能報告の比較 (H37-H28)
		平成26年	平成27年	平成28年	平成37年	
佐賀県 全体	高度急性期	674	558	199	697	498
	急性期	5,752	5,617	5,803	2,638	-3,165
	回復期	1,213	1,639	1,761	3,099	1,338
	慢性期	4,731	4,680	4,615	2,644	-1,971
	合計	12,370	12,494	12,378	9,078	-3,300
中部	高度急性期	187	103	106	372	266
	急性期	2,730	2,805	2,707	1,168	-1,539
	回復期	437	806	776	1,430	654
	慢性期	1,532	1,391	1,422	855	-567
	合計	4,886	5,105	5,011	3,825	-1,186
東部	高度急性期			8	31	23
	急性期	557	450	433	286	-147
	回復期	173	233	278	472	194
	慢性期	1,025	1,106	1,035	559	-476
	合計	1,755	1,789	1,754	1,348	-406
北部	高度急性期	15	15	15	101	86
	急性期	784	755	758	378	-380
	回復期	238	204	238	269	31
	慢性期	683	697	679	437	-242
	合計	1,720	1,671	1,690	1,185	-505
西部	高度急性期	6			32	32
	急性期	546	520	498	171	-327
	回復期	158	158	158	244	86
	慢性期	514	467	464	272	-192
	合計	1,224	1,145	1,120	719	-401
南部	高度急性期	466	440	70	161	91
	急性期	1,135	1,087	1,407	635	-772
	回復期	207	238	311	684	373
	慢性期	977	1,019	1,015	521	-494
	合計	2,785	2,784	2,803	2,001	-802

③自施設の現況

I. 受入患者の状況

ア 入院患者

入院患者数は、平成28年度の64,298人から29年度には62,407人(2.9%減少)となっています。(表1-2参照)また、新入院患者数は3,745人から3,747人とほぼ横ばいですが、平均在院日数は16.6日から15.6日へ短縮となっています。(表1-4参照)この患者数減少は、平均在院日数の短縮に対応した新入院患者を確保できなかったことが原因と分析しています。

診療科別の状況は、内科・婦人科・救急科は、増加していますが、神経内科・外科・整形外科・脳神経外科・小児科で減少をしています。外科、小児科の減少が大きく、特に小児科は医師数の変動による影響も考えられますが、平成24年度の1,222人から28年度が438人(784人減)29年度は274人(948人減)と激減しています。ただ、佐賀県西部医療圏で小児科病床を保有している医療機関は当院のみであるため、今後も地域医療支援病院としての立場も踏まえたうえで、区域の医療機関との更なる連携を強化し西部医療圏における小児医療を担えるよう取組みを進めていきます。

イ 外来患者

外来患者数は、平成 28 年度の 59,530 人から 29 年度には 60,116 人(1%増加)となっています。(表 1-2 参照)。診療科別の状況は、救急科の患者数が平成 28 年度の 639 人から 29 年度には 832 人(30%増)と増加しています。なお、救急患者数も 1,262 人から 1,314 人と増加しています。(表 1-4 参照)地域別患者数では、伊万里市・有田町の年間延患者数は、28 年度の 12,133 人から 29 年度には 12,217 人(84 人増加)と増加しています。(表 1-3 参照)

診療科名	入 院						外 来					
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
内 科	20,720	20,223	20,966	20,326	20,455	21,677	28,016	26,210	26,356	26,466	26,127	25,378
神 経 内 科	5,905	6,349	4,702	4,879	5,632	5,217	2,538	2,594	2,556	2,584	2,722	3,097
外 科	9,221	8,781	9,788	9,033	8,938	7,623	10,192	9,276	8,078	7,452	7,052	6,985
整 形 外 科	8,797	8,395	6,278	5,680	7,408	7,173	6,267	6,416	5,176	5,185	4,809	4,941
脳神経外科	16,129	15,241	15,947	15,210	15,465	13,920	9,176	8,659	8,459	7,719	7,115	7,585
小 児 科	1,222	898	539	481	438	274	8,086	7,301	4,185	3,216	3,098	3,008
救 急 科	2,023	2,341	2,573	3,294	3,167	3,714	406	421	458	640	639	832
婦 人 科	-	1,642	2,606	2,523	2,789	2,807	-	1,469	2,840	2,927	2,992	3,375
耳鼻咽喉科	-	-	-	-	-	-	2,292	1,909	1,735	1,542	1,529	1,560
眼 科	-	-	-	-	-	-	1,424	1,885	1,644	1,635	1,778	1,604
泌 尿 器 科	-	-	-	-	-	-	1,558	1,638	1,664	1,752	1,669	1,751
健 診 科	12	4	8	4	6	2	-	-	-	-	-	-
計	64,029	63,874	63,407	61,430	64,298	62,407	69,955	67,778	63,151	61,118	59,530	60,116

表1-3 地域別患者数の状況

県	市町村	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度											
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院										
		人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)								
佐賀県	伊万里市	9,552	57.1	1,603	55.4	8,753	56.9	1,666	54.0	8,291	56.1	1,633	53.3	7,951	56.2	1,572	53.5	8,010	56.3	1,552	54.8
	有田町	5,078	30.3	948	32.7	4,637	30.1	1,016	33.0	4,429	29.9	976	31.9	4,182	29.6	950	32.3	4,207	29.6	903	31.8
	武雄・埴野市	496	3.0	76	2.6	509	3.3	80	2.6	485	3.3	85	2.8	470	3.3	72	2.4	499	3.5	76	2.7
	唐津市	110	0.7	16	0.6	101	0.7	26	0.8	121	0.8	36	1.2	124	0.9	24	0.8	138	1.0	28	1.0
	その他	155	0.9	25	0.9	205	1.3	47	1.5	197	1.3	41	1.3	191	1.3	35	1.2	185	1.3	18	0.6
	小計	15,391	91.9	2,668	92.2	14,205	92.3	2,835	92.0	13,523	91.4	2,771	90.5	12,918	91.3	2,653	90.2	13,039	91.7	2,577	90.9
長崎県	佐世保市	227	1.4	43	1.5	226	1.5	51	1.7	250	1.7	61	2.0	265	1.9	70	2.4	259	1.8	62	2.2
	松浦市	591	3.5	120	4.1	584	3.8	134	4.3	626	4.2	158	5.2	588	4.2	139	4.7	579	4.1	124	4.4
	その他	137	0.8	28	1.0	147	1.0	32	1.0	164	1.1	33	1.1	167	1.2	41	1.4	173	1.2	35	1.2
	小計	955	5.7	191	6.6	957	6.2	217	7.0	1,040	7.0	252	8.2	1,020	7.3	250	8.5	1,011	7.1	221	7.8
福岡県	118	0.7	25	0.9	108	0.7	14	0.5	118	0.8	18	0.6	114	0.8	21	0.7	94	0.6	17	0.6	
その他の県	136	0.8	11	0.4	119	0.8	17	0.6	108	0.7	21	0.7	95	0.6	17	0.6	84	0.6	19	0.7	
住所不明	140	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
患者総計	16,740	100.0	2,895	100.0	15,389	100.0	3,083	100.0	14,789	100.0	3,062	100.0	14,147	100.0	2,941	100.0	14,228	100.0	2,834	100.0	

表1-4 経営状況の推移

区分		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H29/H24
収支の状況								
医業収益(百万円)		3,140	3,337	3,497	3,345	3,428	3,557	113.3%
うち	入院収益	2,247	2,451	2,605	2,484	2,569	2,634	117.2%
	外来収益	596	600	600	555	543	586	98.3%
医業費用(百万円)		3,320	3,477	3,724	3,701	3,641	3,727	112.3%
うち	職員給与費	1,501	1,617	1,660	1,723	1,761	1,798	119.8%
	減価償却費	299	299	412	380	307	290	97.0%
医業費用 ※2		3,021	3,178	3,312	3,321	3,334	3,437	113.8%
医業収支比率		94.6%	96.0%	93.9%	90.4%	94.2%	95.4%	100.8%
医業収支比率 ※2		103.9%	105.0%	105.6%	100.7%	102.8%	103.5%	99.6%
職員給与費の対医業収益比率		47.8%	48.5%	47.5%	51.5%	51.4%	50.5%	105.6%
運営の状況								
患者数(1日当たり)	入院(人)	175	175	174	168	176	171	97.7%
	外来(人)	286	278	259	252	245	246	86.0%
新入院患者数(人)		3,500	3,439	3,761	3,729	3,745	3,747	107.1%
平均在院日数(日)		16.2	16.1	16.1	15.6	16.6	15.6	96.3%
病床利用率(%)		86.8	86.6	86.0	83.1	87.2	84.6	97.5%
救急患者数(人)		1,180	1,197	1,253	1,310	1,262	1,314	111.4%
平均通院回数		4.9	4.7	5.6	5.8	5.8	5.3	108.2%
診療収入	入院(円)	35,091	38,371	41,091	40,431	39,952	40,958	116.7%
	単価 外来(円)	8,517	8,858	9,497	9,087	9,127	9,844	115.6%
手術件数		939	1,141	1,421	1,524	1,381	1,311	139.6%
職員の状況	医師(人)	16	18	17	19	19	20	125.0%
	看護師(人)	140	153	152	156	157	161	115.0%
	全職員数(人)	208	228	224	234	236	250	120.2%
	看護配置基準	10:1	7:1	7:1	7:1	7:1	7:1	

II. 経営状況

ア. 医業収支比率

医業収支比率は改善方向に推移していましたが、平成 27 年度に低下しています。単純に医業収支比率を 10 対 1 看護基準の 24 年度と 7 対 1 看護基準を取得した 25 年度以降と比較すると、25 年度は 1.4% 向上し、平成 26 年度は 0.7%、27 年度が 4.2%、28 年度は 0.4% いずれも減少し、平成 29 年度で 0.8% 増加したことになります。しかし、平成 26 年度～28 年度は減価償却費(ヘリポートの整備、大型医療機器の更新)が 1 億円前後増加していますので、減価償却費を除いた医業収支比率で比較してみると、24 年度より 25 年度は 1.1%、26 年度は 1.7% 向上しましたが、27 年度は 3.2%、28 年度は 1.1%、29 年度は 0.4% 減少しています。

よって、7 対 1 看護基準を取得したことにより、収支の向上は見られるものの平成 27 年度からは他の要因により経営状況が悪化したこととなります。

入院・外来ともに診療単価は、平成 28 年度に比べ 29 年度は増加しています。入院では、平均在院日数の短縮や手術・処置の収入増加もあり、患者 1 日当たりの単価は 39,952 円から 40,958 円(1,006 円増)と増加しています。また外来も 9,127 円から 9,844 円(717 円増)と増加傾向となっており、注射に関する項目についての収入増加が最も高く(553 円増)抗がん剤による治療を外来にて行う外来化学療法を積極的に行っていることによるものと考えます(表 1-5 参照)。

イ 職員給与費の対医業収益比率

平成 29 年度の職員給与費の対医業収益比率は平成 28 年度と比べ、0.9% 改善しています(平成 28 年度は 51.4%、平成 29 年度は 50.5%)。ただし、病院経営では、一般的に職員給与費対医業収益比率は 50% 以下が望ましいといわれていますので、平成 24～26 年度までは 50% 以下を維持してきたものの、平成 27 年度以降 50% を超えている状況です(表 1-4 参照)。

平成 29 年度は、職員給与費が平成 28 年度と比べ 3.7 千万円増加しましたが、医業収益も 13 千万円ほど増加したこともあり、職員給与費の対医業収益比率は 51.4% から 50.5% と改善をしております。30 年度は、医業収益の確保に努め 50% 以下を目標に現在、取り組みを進めています。

表1-5 診療行為別収入状況

	H25年度		H26年度		H27年度		H28年度		H29年度	
	収益 (千円)	患者1日 当たり(円)	収益 (千円)	患者1日 当たり(円)	収益 (千円)	患者1日 当たり(円)	収益 (千円)	患者1日 当たり(円)	収益 (千円)	患者1日 当たり(円)
入院収益	2,450,937	38,371	2,605,460	41,091	2,483,667	40,431	2,568,840	39,952	2,633,537	40,958
投薬	58,506	916	61,514	970	61,502	1,001	66,132	1,029	63,765	992
注射	184,368	2,886	198,769	3,135	182,916	2,978	192,116	2,988	186,397	2,899
処置・手術	512,760	8,028	587,169	9,260	515,504	8,392	503,020	7,823	567,393	8,824
検査	101,184	1,584	118,229	1,865	119,034	1,938	115,784	1,801	110,639	1,721
放射線	86,465	1,354	93,750	1,479	90,164	1,468	93,323	1,451	85,195	1,325
入院料	1,268,229	19,855	1,307,486	20,621	1,282,180	20,872	1,354,236	21,062	1,362,662	21,193
食事療養費	106,085	1,661	106,487	1,679	101,750	1,656	107,118	1,666	106,558	1,657
その他	133,340	2,088	132,056	2,083	130,617	2,126	137,111	2,132	150,928	2,347
外来収益	600,410	8,858	599,741	9,497	555,384	9,087	543,349	9,127	586,031	9,844
初診	45,257	668	37,040	587	35,198	576	32,860	552	32,070	539
再診	37,839	558	38,565	611	38,308	627	37,353	627	36,635	615
投薬	6,238	92	5,030	80	4,908	80	4,900	82	4,489	75
注射	75,801	1,118	98,239	1,556	54,310	889	60,126	1,010	93,035	1,563
処置・手術	9,890	146	11,811	187	20,282	332	14,610	245	15,169	255
検査	193,847	2,860	195,127	3,090	193,009	3,158	193,101	3,244	197,878	3,324
放射線	201,394	2,971	184,974	2,929	181,200	2,965	175,233	2,944	182,226	3,061
その他	30,144	445	28,955	459	28,169	461	25,166	423	24,529	412

④自施設の課題

ア. 入院患者の確保

当院は西部医療圏の二次医療機関として、区域の中核病院を担っております。該当医療機関として診療所や他医療機関と連携を行い、入院医療および専門外来医療を提供しています。しかし、入院は、平成24年度以降の病床利用率が目標の88%以上をクリアしていない状況です(表1-4参照)。医業収益の約8割を入院収益が占めていることから、入院患者の確保が病院経営に直結する課題だと捉えています。(表1-5参照)。今後も当院が西部医療圏の二次医療機関としての機能を十分に発揮する為には、「かかりつけ医」を支援することは元より、他医療機関との適切な役割分担と連携を更に進めること、つまりは地域医療支援病院としての役割をしっかりと果たすことで、入院患者確保に努めるよう取り組むことが必要と考えています。

イ. 医師の不足

当区域において現在、高度急性期病床の設置は無い状況ですが、当院においても救急科の医師が1人しかいなく、高度急性期医療や救急車の受入についても区域からの需要に応え切れていない現状があります。

また、医師数においても常勤18名と少ない人数で運用中であり、中長期的な病院ビジョンを描く事が困難な状態が続いています。早急な医師確保対策が課題と捉えています。

ウ. DPC対象病院として

当院は平成30年4月よりDPC対象病院として新たな一歩を歩み始めました。これにより今まで以上に病床稼働率、平均在院日数等に注力していくこととなります。入院期間Ⅲを超える入院実績は、機能評価に対する影響を鑑みる必要も出てきました。

また、当区域の中でも特に有田地区には回復期の病床を持つ医療機関が皆無な状況であり、急性期から回復期へ移行される患者に対する今後の対応が懸念材料として残ります。

【2. 今後の方針】

①地域において今後担うべき役割

公立病院として、また、地域医療支援病院として医療を通じ、地域住民の健康と福祉の増進を図ることを責務として、次の役割を担う運営を行っていきます。

- ア 佐賀県西部地域の地域医療支援病院として、急性期医療などの質の高い医療を提供する役割
 - イ 安心、安全して受診できる地域住民のための病院としての役割
 - ウ 患者の紹介・逆紹介や高度医療機器の共同利用、診療情報伝達システム「ピカピカリンク」等を活用し、地域における病症・病診の医療連携を強化する役割
 - エ 地域の医療従事者の資質の向上を図るため研修会等を開催し、地域医療の充実を担う役割
 - オ 災害拠点病院として、災害発生時における機動性を重視した医療救護活動及び県等の要請による医療救護班を派遣する役割
- などを踏まえて、役割や方向性も含めて院内及び院外においても議論していく必要があります。

② 今後持つべき病床機能

現在の急性期病床 206 床(一般病床・感染病床含む)を維持していきます。

※上記④自施設の課題ウ. DPC対象病院としても記載しておりますが、当区域の医療機関における今後の病床状況、退院患者の動向等によっては各医療機関との連携、協議のもと、機能分化も辞さないことも視野に入れ運営していきます。ただしその際は、「佐賀県地域医療構想調整会議における協議の取扱要項」に従い、協議させていただければと考えています。

【3. 具体的な計画】 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

〈今後の方針〉

	現在 平成 28 年度病床機能報		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期	206 床		206 床
回復期			
慢性期			
(合計)			

〈年次スケジュール〉

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017 年度	○DPC病院移行への検討 申請		<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">集約 2 年間程度で 集中的な検討を促進</div> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center;">第 7 期 介護保 険事業 計画</div> <div style="background-color: #76b82a; padding: 10px; text-align: center;">第 7 次 医療計 画</div> </div> <div style="background-color: #f4a460; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 10px;">第 8 期 介護保 険事業 計画</div> </div>
2018 年度	○合意形成に向けた協議 ○地元医師会等との協議 ○地域医療構想調整会議にお ける合意形成に向け検討	・DPC病院で算定 ○自施設の今後の病床 の在り方を決定 ○地域医療構想調整 会議において合意を得 る。	
2019～2020 年度			
2021～2032 年度			

②診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

〈今後の方針〉

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設	/		→
廃止			→
変更・統合		→	

③その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率 : 2017年度=84.6% → 2025年度 88%
- ・ 手術室稼働率 :
- ・ 紹介率 : 69.0% → 70%以上
- ・ 逆紹介率 : 86.5% → 現状維持

経営に関する項目

- ・ 人件費率 : 50.5% → 49.7%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用(職員研修費等)の割合 : 0.15% → 0.30%

その他 :

- ・ 診療単価 (1日1人当り)入院 : 40,958 円(H29 年実績) → 41,160 円(目標)
- 外来 : 9,844 円(H29 年実績) → 9,400 円(目標:クリア)

*地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

病院機能につき、大幅な変更等を検討する際は、区域で十分な協議を行うことはもとより、「佐賀県地域医療構想調整会議における協議の取り扱い要項」に準じて執り行って参ります。

